

数学科現状の分析と授業改善プラン

数学科における平成 29 年度改善プランの検証

- | | |
|------|---|
| 1 年生 | 小学校の既習事項について確認テストを行い、それを参考に授業中の机間指導などを個別に行って対応することができた。生徒によって個人差がかなり大きく、今後も実践していくべきであると考え |
| 2 年生 | 宿題の点検や評価によって、昨年度以上に生徒の課題への意欲や提出期限を守ろうという意識が高まった。加えて課題の内容が定期考査に出題されるなどすることで、さらに課題に対するモチベーションに繋がった。 |
| 3 年生 | 定期考査に 1, 2 年生の既習単元を含めることで復習を促し、また授業でもここまで学んできたことをつなげて考えることの重要性を強調することで独立したままだった各単元が有機的に結びつき、それらを知識として新しい単元の学習に役立てる力が養われた。 |

数学科における内容別結果の分析

- | | |
|---|--|
| ・大田区学習効果測定 | の教科全体の平均正答率が、各学年とも全国平均、区平均を上回っていて、教科全体としては継続した授業改善の効果が認められる。 |
| ・内容別に結果を分析すると、1 学年は「比例・反比例、平面図形・空間図形」、2 学年は「1 次関数、図形」、3 学年は「相似な図形、関数」が課題として挙げられる。 | |

数学科観点別結果の分析

- | | |
|--------------|--|
| 〈関心・意欲・態度〉 | ・全学年で全国平均、区平均と比較して平均正答率が上回った。継続して生徒の興味・関心を喚起させたい。 |
| 〈数学的な見方・考え方〉 | ・全学年で全国平均、区平均と比較して平均正答率が上回った。
現状では大きな問題はないと考えるが、問題を色々な角度から考え数学的に表現する能力を引き続き高めていきたい。 |
| 〈数学的な技能〉 | ・全学年で全国平均、区平均と比較して平均正答率が上回った。
生徒によって個人差の大きい観点であり、習熟度の低い生徒は算数の内容に戻って復習していくなど個々の課題に応じて計算の処理能力を高める必要がある。 |
| 〈知識・理解〉 | ・全学年で全国平均、区平均と比較して平均正答率が上回った。引き続き単元ごとに既習の知識を確認しながら継続して知識の定着を図っていく。 |

数学科の授業改善のポイント

- | |
|--|
| ・ ESD の観点から、身近な事象や生徒が興味・関心を示す事象を取り上げ、引き続き、関心・意欲・態度を高める授業を実施する。 |
| ・ 課題を数学的に考え、表現し、伝え合う授業を引き続き展開し、課題を数学的に解決することの重要性を認識させる。 |
| ・ 3 年間を通して小テストを計画的に実施し、達成度を評価する。 |
| ・ 習熟度別授業を展開していく中で、さらに個別指導の時間を増やしていく。 |
| ・ ワークシート・問題集などを活用し、知識の確認と定着化を図る。 |